

1 西洋の伝統的な世界観・自然観は、何よりもまず神を基本とし、出発点としている。神があるがゆえにこの世界があるのであり、神が創造したがゆえにこの天地万物があるのであった。この神は、絶対の権威であるとともに、首尾一貫した合理性をもつ人格的な神である。その神が創造したものには、したがって、一貫した秩序と合理性があるはずである。5 そのような秩序と合理性を自然の中に見いださざるはずである。そして、これを見いだすことは、とりもなおさず、神のわざを明らかにし、神の深い智慧^{ちえ}を知ることである。宗教的にも極めて有意義な行為である。神の被造物たる自然を読みとることは、神の言たる『聖書』を理解するためにも必要なことである。(1) 自然の研究には、『聖書』の研究にも比すべき意義がある。

10 西洋の伝統的な世界観・自然観は、このようにして、自然を客体的に見、客体的に取り上げるといふ基本的な態度を確立させ、その自然の中に一定の秩序があることを確信させ、そして、それを見いだす努力に対して有形無形の宗教的是認と鼓舞を与えるという役割を果たしてきたのである。まだ近代科学の成立を見なかつたころ、すなわち、まだそのようなものが成立するか否かさえさだかではなかつたころ、まして、科学者という職業など考15 えられもしなかつた時代に、それでも自然の研究に立ち向かって、ついに近代科学の成立をもたらすことを可能にした人々は、およそ右のような世界観・自然観に導かれて活動したのである。

自然を伴侶^{はんりよ}とし、自然の中に没入し、自然とひとつになろうとする日本人の伝統的な自然観は、西洋人のそれとは著しく趣をことにしている。西洋人のそれからは、例えば、「朝20 顔に 釣瓶^{つるべ}とられて もらい水」といふような俳句は決して出てはこなかつたのである。彼らの場合にはむしろ、これによつて(2)その風流心をほめられるどころか、井戸が故障したわけでもないのに早朝から水をもらいにきて他人の生活を妨げなどするのは、困った隣人であり、市民として失格であるということになつたであろう。

日本の自然観は、日本独特の美しい文化や生活様式を生み出してきたが、それは、近代25 科学や近代科学技術を生み出すような自然へのアプローチとは程遠いものであつた。地震学の成立史を見れば、この点はきわめて明らかである。古来この国に地震は数かぎりなく発生したけれども、(3)ついで日本人の手によつて地震学といふべきものは生まれなかつた。

氏名

評点

30

問一 傍線部①「自然の研究」とはどのようなものか。わかりやすく説明せよ。

問二 傍線部②「その風流心」とはどのようなものか。わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部③「ついで日本人の手によって地震学というべきものは生まれなかった」と

あるが、それはなぜか。その理由をわかりやすく説明せよ。
